

家電事情

JETRO



ケニア

BOP実態調査レポート

ケニアは、途上国向けに開発された商品の集積地として、東アフリカや中央アフリカ市場を目指すアジアのメーカーの拠点となっている。

利用状況

ケニアの家庭で、1つ以上の家電製品を所有または使用している世帯の割合は90%を超える。携帯電話の利用率は他国と比較して高く、ケニア通信委員会のデータによれば、加入者数は2,530万人(人口の約65%、2012年9月時点)で、年平均増加率は約4%である。

家庭にある一般的な家電製品としては、娯楽機器(テレビ、ラジオ、DVD・VCD・音楽プレーヤー、ホームシアター、音楽システムなど)、台所用品(冷蔵庫、電子レンジ、電気コンロ、湯沸かし器・温水器、ミキサーなど)に照明、アイロン、暖房器具(ヒーター)、パソコンなどである。

携帯電話

携帯電話が広く利用されている。携帯電話機が比較的安価なためと言える。高価な最新のスマートフォンから、基本機能のみの安価な機種まで、消費者の好みや経済力にあった電話機が提供されている。市場には、よく見かける Nokia、Samsung、Alcatel、Hauwei、ZTE、NEC、LG、Sony Ericson、Blackberryの製品に加え、アジアから新規参入した Tecno、Mi Fone、Birdなどの製品が溢れている。携帯電話業界は積極的で、最も競争が激しく価格が安い国の一つとなっている。

NokiaとSamsungが、確かな製品と信用によって市場において支配的で、両社のシェアは60%を超えている。残りを他のメーカーが分け合っているが、この10年来、安価な中国製品がシェアを増やしている。

ケニア通信委員会の規制・管理が強化され、2012年10月から偽造電話機が使用できなくなり、携帯電話機器は、基準や品質保証の条件を満たすものとなっている。



JETRO

Copy rights(C) 2013 JETRO. All rights reserved.

通信事業者4社により、利用者が自由に選べる機種(複数SIMカード、大型ディスプレイ、QWERTY配列のキーボードやタッチスクリーン、大容量メモリー)や便利な機能(ラジオ、音楽プレーヤー、ゲームなどの組み込み)の製品が提供されている。価格は、形式、メーカー、製造年、販売者などによって変動するが、通話とテキストメッセージのみの簡単な製品はわずか500シリング(Ksh)から入手できる。高機能の製品は2,500 Kshから2万Ksh、スマートフォンは1万Kshから10万Kshである。

娯楽機器

たいていの世帯は少なくともラジオを所有し、11世帯中7世帯はテレビを所有している。インタビューを行った世帯は少なくともどちらか1台は所有していた。これは、大部分の世帯、特に都心部における一般的な状況を反映している。各家庭は、様々なメーカーの機器を所有している。この分野は、家電大手のSony、Samsung、LG、Panasonicが支配的であるが、アジアのメーカー、例えばSharp、Pioneer、Sayona、Miyota、Nakiva、Sonic、Ampexなどの安価な製品も浸透している。テレビは、Sony、JVC、LGや中国ブランドが好まれている。形式、メーカー、サイズ/仕様、使用技術によって異なるが価格は5,500 Ksh以上である。アナログ方式からデジタルへ切り替わるため、現在、多くの販売業者がデジタルテレビや、デコーダと呼ばれるデジタル変換器の輸入に力を入れている。



ラジオや音楽機器では、Sony、Samsung、LG、JVC、Panasonicが好まれており、平均して10世帯中5世帯で最低でも1台のラジオ、ホームシアター、またはDVD・VCD・音楽プレーヤーなどのメディアプレーヤーがある。こうした機器、特にメディアプレーヤーのほとんどが安価な中国の偽造品で壊れやすい製品が多い。

台所用品

調査対象世帯の台所のほとんどが簡単な設備しか持たなかったが、それでも多くは、冷蔵庫や電子レンジ、電気コンロ、ミキサー、電気ポットなどの製品を所有していた。その大部分が台所用電気製品の75%のシェアを持つと推定されるRamtons製であった。LG、Haierの製品が一部の台所で見られた。小売価格はある種の類似性があり、メーカーや型式、機能で分類され、種類、機能、サイズなどで異なる。例えば、最も安いLG製の1m×0.5mの冷蔵庫の場合、平均価格は2万Kshである。電子レンジの平均価格は7,500 Ksh、電気ポットは3,000 Ksh、ミキサーは2,000 Kshであった。





その他の製品

温水器、エアコン、暖房器、アイロン、掃除機、食器洗い機、照明器具、パソコンなどの製品を購入しているBOP層も多い。エアコンや暖房器は、特に都心部の事務所や職場で一般的であるが、一部の家庭でも使われている。同じ傾向は食器洗い機や掃除機でも見られる。インタビューした25世帯のうち、1世帯のみHaierブランドの掃除機を持っていた。ある小売店の調査によれば、掃除機ではRamtons、Haier、Samsung、Philipsが最も信頼されるブランドであった。価格は要因により異なる。標準的なスチーム機能なしのアイロンの平均価格は、Philips製で1,200Ksh、Ramtons製で1,500 Ksh、Haier製で1,800 Kshであった。



照明器具は、懐中電灯から充電式LEDライト、電球、電気スタンドまで種類が多い。この分野ではPhilipsが最も支配的で、比較的高価格にも関わらず家庭用省エネ製品に人気がある。同社の標準的な省エネ電球は、平均小売価格が250 Kshである。ただし、仕様や製品寿命によって小売価格は種類ごとに異なる。中国のその他ブランドが家庭に浸透し始めているが、製品寿命が短く、価格は平均100Kshと比較的低い。

日本の投資家の機会

一般に日本の製品は、家電製品に限らず高品質と考えられている。JVC、三菱電機、任天堂、Panasonic、Sharp、Sony、東芝、NEC、Pioneerなどのブランドの日本のメーカーは、ケニアで評判が高くアジアや欧州の投資家よりも有利な立場にある。

投資機会としては、製造/組み立て工場の設置、地元流通業者との提携、研究開発、各種サービスを行う地域拠点開設、研修と技能開発などがある。

JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。